

ホタテガイ地まき増殖実態調査 (昭和56年9~10月)

三戸 芳典・田中 俊輔・仲村 俊毅・平野 忠
青山 禎夫・浜田 勝雄・山本 正昭・吹越 弘光
浅加 信雄¹⁾・西山 勝蔵¹⁾・奈良岡修一²⁾

はじめに

本調査は昨年度に引続き地まき増殖の実態を全湾規模で把握する事を目的に行った。

調査方法

調査期間：昭和56年9月7日から10月1日まで

調査方法：桁網調査……当センター所属の調査船白鳥丸でホタテガイ桁網を使用
潜水調査……当センター職員による潜水採取り調査

調査地点：湾内24組合・支所のうち17組合・支所の55年産放流区画を1~2回(1回が2~3分)曳網

調査結果

第1図に全湾のへい死率と異常貝出現率を、第1表に測定結果を示した。

昨年は正常貝率が50%あり、経済性に期待できる組合が半数の10組合あったが、今年は3組合だけとなった。又、昨年正常貝率が50%近くあった組合で今年採捕したところ回収率が10%弱であったこと、昨年正常貝率が約25%あった組合の54年産貝を再度調査したところ正常貝率は5%を割ったことから、湾内の地まき増殖成績は予想以上に厳しい現状にあるといえる。




地区ごとにみると、昨年同様下北地区が上位を占めている傾向にある。しかし、特に下北地区が地まき増殖に適した環境にあるとは考えられない事から、健苗放流・適正放流・漁場管理が適正に行われたかどうか優劣を左右したと思われる。そのなかでも主要因は放流種苗に問題があったためと思われる。

おわりに

地まき増殖成績不良の主要因が放流種苗にあることは明らかであるが、アンケート調査などから放流種苗を十分吟味した組合でも悪い結果となった。これは、漁場管理や放流技術にも問題があったためと思われる。

1) 青森地方水産業改良普及所 2) むつ地方水産業改良普及所

組合名	比	率 ¹⁾	(%)	放流時期
		50	100	
田名部	18.39	94.3		翌春
むつ市 (浜奥内)	12.3	18.2	69.5	"
土屋	16.9	22.7	60.4	年内
横浜	25.2	27.3	47.5	"
むつ市 (大蓬)	30.9	23.3	45.8	翌春
蟹田	40.0	16.2	43.8	年内
野内地	51.0	5.9	43.1	"
脇野沢	39.4	19.4	41.2	翌春
久栗坂	45.0	21.7	33.3	年内
茂浦	48.1	18.8	33.1	翌春
野内	63.4	9.2	27.4	"
奥内	58.5	18.7	22.8	"
後潟	51.7	13.5	34.8	年内
東田沢	57.1	26.6	16.3	翌春
原別	63.1	15.9	21.0	年内
蓬田	57.1	26.6	16.3	翌春
蓬田	41.7	3.3	50.0	"
造道	87.0	8.7	4.3	"
造道	83.7	11.0	5.3	"
青森	89.4	5.7	4.9	"

1)  へい死率、 生貝中の異常貝出現率、 正常貝率

$$\text{へい死率(\%)} = \frac{\text{死貝数}}{\text{調査貝数}} \times 100$$

第1図 昭和54年産地まきホタテガイの成績

第1表 昭和55年産地まきホタテガイ実態調査測定結果

組合 支所名	生貝数	死貝数	へい死率	生 貝			
				殻 長	全 重 量	異 出 常 現 貝 率	m ² 当りの 枚 数
	(枚)	(枚)	(%)	(cm)	(g)	(%)	(枚)
脇野沢	245	159	39.4	6.6	29.5	19.4	2.9
むつ市 (大湊)	1,932	864	30.9	6.8	31.6	23.3	27.2
むつ市 (浜奥内)	426	60	12.3	7.0	35.1	18.2	8.3
田名部	1,316	24	1.8	6.5	28.8	3.9	31.3
横浜	890	300	25.2	6.8	33.5	27.3	9.6
野辺地	168	175	51.0	7.3	40.2	5.9	—
東田沢	65	111	63.1	7.9	58.5	15.9	6.5
	39	52	57.1	7.7	50.5	26.6	7.8
茂浦	347	321	48.1	7.3	51.9	18.8	—
土屋	394	80	16.9	8.2	58.7	22.7	4.0
久栗坂	388	318	45.0	8.0	55.3	21.7	4.0
野内	644	1,116	63.4	7.3	46.6	9.2	5.6
原別	378	874	69.8	7.9	44.6	21.8	6.5
造道	240	1,232	83.7	7.3	40.4	11.0	2.1
青森	74	626	89.4	7.5	45.5	5.7	0.6
奥内	1,708	2,412	58.5	7.9	55.3	18.7	12.9
後潟	468	500	51.7	8.8	65.4	13.5	7.1
	120	278	69.8	8.4	58.2	20.0	1.8
蓬田	7	5	41.7	8.2	58.3	8.3	0.7
	21	140	87.0	7.1	42.2	8.7	1.1
蟹田	1,940	1,296	40.0	7.7	47.6	16.2	18.9

1) 上段 地元産貝、下段 購入貝

2) 上段 年内放流、下段 翌春放流

注) 桁網効率は15%とした。

地まき増殖は次の世代に関与する他、今後再びへい死が発生した時には地まき貝を養殖に転用するなど保険的な要素もあることから、漁業経営の安定のためにも適正化のための指導・啓蒙が必要である。